～ふくしまの歴史と文化財～

文字摺通信

第　１１８　号
２０２６年　８月１５日
発行:文字摺歴史文化社

＝これも戦争遺跡＝

日露戦争分捕り記念遺品碑

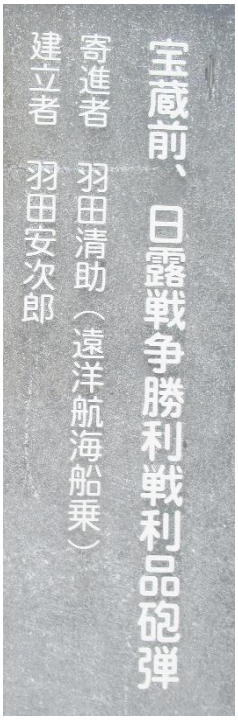


福島市瀬上町の旧道を行き、本町と荒町の境にある信号を左折してすぐに雷神社があり、その境内に右の基壇が見える。この立派な基壇の上に何が鎮座していたのか、長年疑問だったが、その疑問を解消してくれる古写真が見つかった。

羽織・袴の正装の男性が４列に並んでの記念写真である。写真左端に写っている屋根は雷神社であり、右側奥の樹木に大わらじがぶら下げられている。宮代の日枝神社には今も大わらじ奉納の伝統が残っているが、瀬上でもあったのだろうか？この件については後日調べてみたいと思っている。

次ページの写真では、皆、左胸に勲章を下げている。そして左端に立っている男性が持っているのは旭日旗であり、基壇の上に立っているのは大砲の砲弾である。日露戦争の戦利品をこのように神社境内に“展示”して、「日露戦争勝利」を高らかに歌い上げるために立派な基壇を造成し、その前で記念写真を撮っている。

鳥谷野の鹿島神社境内には右の写真のように砲弾が立てられている。説明板には「日露戦争勝利戦利品砲弾」とある。これも戦争遺跡である。こうした戦争遺跡・遺品をどう伝えていったら良いのであろうか。日清・日露戦争頃から日本の帝国主義的政策が強化されていく中で、国民の戦意高揚に一役かったのであろう。





瀬上の基壇も何のために造られたのかをきちんと説明し、その上で、「顕彰」ではなく「反省」の教材として「平和教育」に役立てたい。「萎縮」「自粛」しつつある平和教育を考える地域資料として教材化を考えていきたい。